

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、ご臨席の保護者の方々にも心からお祝い申し上げます。すっかり春めいた今日の良き日に、犬山商工会議所会頭 日比野良太郎さまはじめ、多数のご来賓の方々のご隣席を賜り、卒業式を盛大に挙行できますことをうれしく思います。市邨学園名古屋経済大学は、本日、大学院博士課程5名、修士課程53名、学部生410名、計468名の卒業生を送り出すことになりました。この中には、本学がグローバル化に対応するために留学生を積極的に受け入れる方針を立てて迎え入れた留学生97名が含まれています。そのなかで、日本での就職を希望した71名全員が日本で就職できたことを非常にうれしく思います。

ところで卒業生の皆さん、学生時代はいかがだったでしょうか。博士課程は3年、修士課程は2年、学部は4年と年数は違いますが、それぞれ一生忘れることができない学生時代を送られたことと思います。これからみなさんは、新たな夢を持って社会生活を送ることになります。何事も初心忘れるべからず。今抱いている、わくわく感を忘れることなく社会に出て行っていただきたいと思います。

現代社会は、科学技術の急速な発展とグローバル化の急激な展開

により、予測不可能な時代になっています。A I の急速な発展は、将棋や囲碁ではコンピューターが人間に勝利するまでになり、また、車の自動運転も可能にしようとしています。このような社会では進化するコンピューターを前にして人間は何をするべきかが常に問われると思います。

コンピューターに勝てない人間が戦うプロ将棋が、なぜ変わらぬ人気を得ているのかは、A I 時代の人間の役割を考えるうえで、参考になるかもしれません。また、先日ラジオで興味深い話を聞きました。ラジオで聞いただけですから正確ではないかもしれませんが、若いセールスマンの次のような悩み相談を端緒にした話です。彼の職場では、優れた商品ではあるが価格が高いものを売っており、なかなか売れないし、これは消費者のためになっているだろうか、という悩み相談です。番組ではベテランで優秀といわれるセールスマンにアンケートを取ったら、意外な、しかも同じ内容の返事が多く寄せられたというのです。それは、「安くて良いものならだれでも売ることができる。セールスマンが売るのは品物ではなく信頼であり、人である」と言うのです。このことは、A I 時代に人が何をすべきかを考えるヒントになると思われそうですし、「一に人物、二に伎倆」

を教育目標にしてきた本学を卒業される皆さんは腑に落ちることではないかと思います。

また、急激なグローバル化の展開は、経済の中心をますますアジアに移動させていますし、グローバル化の反動は、内向きなトランプ政治、EU諸国における反移民運動、イギリスのEU離脱などの問題を引き起こしています。アジアを中心とした多くの国籍の学生とともに過ごした本学の卒業生は国籍の異なる多くの友人を持ち、異文化理解ができていると思います。このことは、グローバル社会で活躍するためには大きな財産になると確信しています。是非、世界に目を向けて活躍をしてください。

しかし、皆さんのこれからの長い人生は良いことばかりではありません。このめでたい席で自分のこのような話をするのは適切ではないかもしれませんが、70過ぎの先輩の話として聞いていただきたいことがあります。私は、昨年8月の人間ドックで食道がんが見つかり、10月に外科手術を受けました。6時間の手術を受けてまだ、半年たっていないのです。私は今まで、「人生を振り返らない、振り返る暇があったら先を考える」をモットーにしてきましたが、手術までの2か月間はそういうわけにはいきませんでした。手

術後5年の生存率が75%と言われ、いろいろと考えさせられました。食道がんという日本人には少ないガンにかかったことを不運に思う自分に、主治医はステージ1で見つかったことをむしろ幸運と思うべきだと言ってくれました。これも気持ちの持ちようだと、その後の生き方の参考になりました。

70年を振り返って思い出されることは、困難に突き当たり、格闘したことばかりです。しかも、嫌な思い出としてではなく、懐かしい思い出としてです。例えば、修士論文の締め切りを前にして1週間は、ほとんど不眠不休で頑張ったこと、などなどです。皆さんも、将来困難に突き当たった時は、不運だと思わず前向きに考え、逃げることなく全力で立ち向かってください。結果がどうであれ、後には懐かしく思い出されるはずです。困難に立ち向かうことは人生の思い出作りだと心得ていただきたいということです。また、半年もたたずにここに立っておられるのは、人一倍リハビリに励んだからです。医者や看護師の人たちから、なぜここまでリハビリに精を出すのかと問われましたが、きれいごとではなく、まだ名古屋経済大学の改革でやりたいことがあるからでした。困難に立ち向かうとき、困難と闘うだけでなく、夢を持つことが非常に重要であることを実

感しました。皆さんの参考にさせていただければと思います。

次に老人としてではなく、学長として申し上げます。努力の結果、どうしても問題が解決しない時は、迷わず、名古屋経済大学を訪ねてください。本学のキャリアセンターは、卒業生の転職支援も行っています。しかし、安易な転職は認められません。私が尊敬する実業家が「5年我慢できない人は信用しない」と言っていましたが、私もそう思います。ブラック企業でない限り、5年は転職しないで頑張ってみるべきだと思います。

最後にもう一言、市邨学園は112年の歴史を持ち、多くの先輩が、社会で活躍しています。皆さんは、誇りをもってその一員となり、社会で活躍してください。また、卒業生として、名古屋経済大学を見守っていただきたいと思います。「卒業生とともに歩む大学」これが我々のもう一つのキャッチフレーズです。

本日は本当におめでとうございました。